

Economic Indicators

発表日: 2020年11月10日(火)

景気ウォッチャー調査(2020年10月)

～現状判断D Iは節目の50を超えるも、感染状況の悪化が今後の景況感改善の重石に～

第一生命経済研究所 調査研究本部 経済調査部
副主任エコノミスト 小池 理人(Tel:03-5221-4573)

		景気の現状判断(方向性)(季節調整値) 合計			景気の先行き判断(方向性)(季節調整値) 合計				
		家計動向 関連	企業動向 関連	雇用関連	家計動向 関連	企業動向 関連	雇用関連		
2019年	10	36.9	34.9	41.0	41.1	44.3	44.8	44.0	41.2
	11	38.8	38.3	39.2	41.1	45.9	47.1	44.0	42.2
	12	39.7	39.0	41.2	40.8	45.5	46.1	44.7	43.0
2020年	1	41.9	42.2	41.7	39.8	41.8	42.4	40.9	40.0
	2	27.4	26.1	30.1	30.4	24.6	23.3	26.3	29.9
	3	14.2	12.6	19.2	13.6	18.8	18.9	19.2	17.6
	4	7.9	7.5	9.9	6.3	16.6	18.3	13.9	11.4
	5	15.5	16.4	15.0	10.7	36.5	38.9	31.3	31.5
	6	38.8	43.3	30.4	27.4	44.0	45.7	39.9	41.9
	7	41.1	43.3	37.8	33.8	36.0	35.8	37.6	33.7
	8	43.9	45.3	41.1	41.2	42.4	42.5	42.4	41.7
	9	49.3	50.3	47.4	47.0	48.3	48.5	47.4	48.9
	10	54.5	55.1	53.0	53.8	49.1	49.1	48.3	50.8

(出所)内閣府「景気ウォッチャー調査」

○現状判断D Iは改善するも、先行き判断D Iの改善幅は小幅にとどまる

内閣府から発表された10月の景気ウォッチャー調査(季節調整値)(調査期間:10月25日～月末)では、現状判断D Iは前月差+5.2ptと前月から改善し、景気判断の節目となる50を上回った。G o T o キャンペーンの効果や感染状況がいったん改善していたことによる人出の回復によって、景況感が改善したようだ。先行き判断D Iについても、同+0.8ptと前月から改善した。政策的な後押しによる期待感はあるものの、気温低下に伴う感染再拡大への警戒感から、先行きの景気見通しの改善は小幅なものにとどまった。

○現状: G o T o キャンペーンや人出の回復によって、景況感は改善

現状判断D I(季節調整値)の内訳をみると、家計動向関連D Iが前月差+4.8pt、企業動向関連が同+5.6pt、雇用関連D Iが同+6.8ptといずれの項目も大きく改善した。

家計動向関連のコメントをみると、「10月からG o T o T r a v e l キャンペーンの地域共通クーポンが発行され、東京発着も対象になり、個人客を中心に例年並みの集客ができています(観光型旅館)。」や「G o T o キャンペーン、地域振興券や応援券等の効果で、客足が戻ってきている(高級レストラン)。」など、政府や地方自治体によるキャンペーンの効果が景況感の改善に繋がっていることを示すコメントが多くみられた。10月からはG o T o イートが開始されたこともあり、10月の飲食関連の現状判断D I(季節調整値)は60.4と、他の項目と比較しても高い水準にまで改善している。また、「人出が増えてきており、車の買換え等の前向きな話も多くなってきた(乗用車販売店)。」

や「9月の連休以降、人出が戻ってきたように感じる。しばらく買物をしていなかったから、と奮発する客も一定数ある（一般小売店）。」など、感染状況がいったん落ち着きをみせていたことに伴う人出の回復も、景況感改善の要因となったようだ。

企業動向関連については、「まだまだコロナ禍前の状況には程遠いが、底を打って回復に向かってきていることは確実である（金属製品製造業）。」や「新型コロナウイルスの影響で営業行動が落ち込んでいるものの、客の購買行動がみられ始めていることから、受注量は増加している（通信業）。」など、新型コロナウイルスの影響は受けつつも、売上が底打ちし、回復傾向にあることから、企業の景況感に改善の動きが広がっている。

雇用関連では、「新型コロナウイルスの影響で変化した状況に、やや慣れてきたのか求人が動き出している（学校）。」や「Go Toキャンペーンにより人の動きが出てきている。宿泊業や旅行代理業、飲食業などに少しずつ景気の回復が感じられる（人材派遣会社）。」など、経済活動が正常化する中で、雇用環境が緩やかに改善してきていることを示すコメントが多くみられた。

○先行き：改善が示されるも、感染状況への悪化懸念などから改善の勢いは鈍い

先行き判断D I（季節調整値）の内訳をみると、家計動向関連D Iが前月差+0.6pt、企業動向関連D Iが同+0.9pt、雇用関連D Iが同+1.9ptといずれの項目も改善した

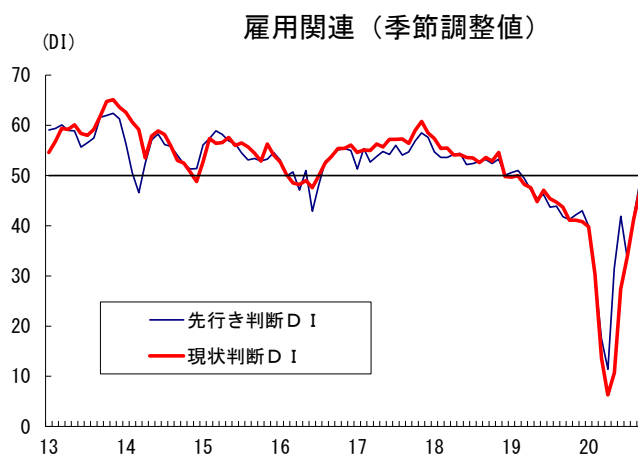
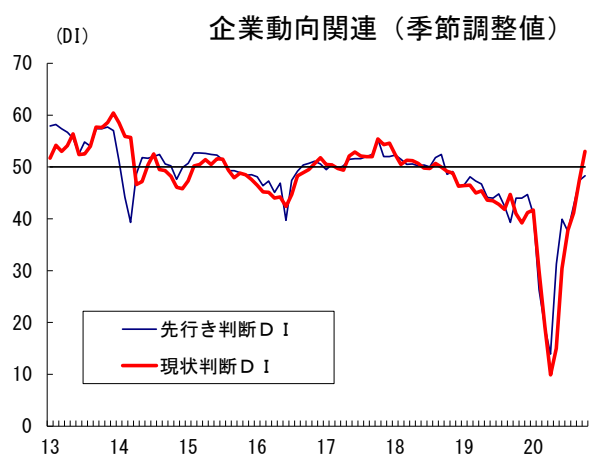
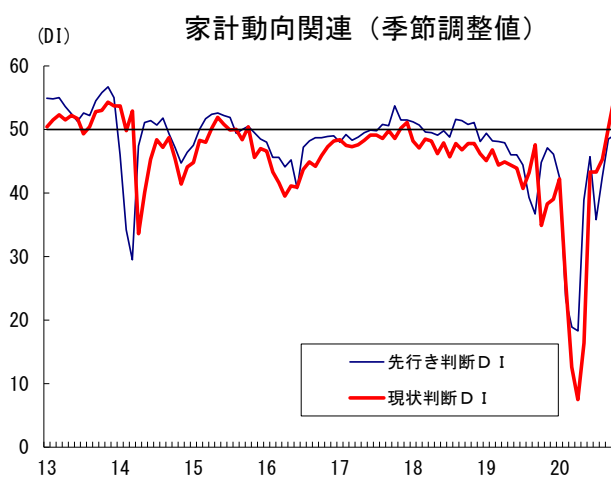
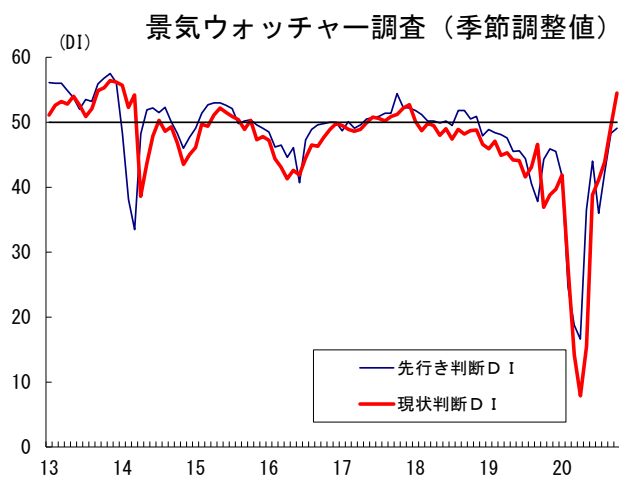
家計動向関連D Iでは、「年末に向けて人の往来が増え、消費も増えてくることを期待している（百貨店）。」など年末の消費への期待感を示すコメントがみられるものの、「大阪も新型コロナウイルスの感染者が増えているため、外出が控え目になり、外食の機会も減りそうである。忘年会も企業はまだ控えているため、宴会シーズンは厳しくなりそうである（一般レストラン）」や「冬季ボーナスが減少となる見込みであり、ボーナス商戦やバーゲンセールなどは厳しいと想定される（百貨店）。」にみられるように、宴会の減少やボーナス減少への懸念から景況感の改善は小幅なものにとどまっている。

企業動向関連では、「受注が回復傾向にあり、2～3か月先の売上も増加する見込みである。自動車産業を中心に回復基調にあると考える（鉄鋼業）。」や「自動車のみならず、産業用ロボット、油圧機器等、受注拡大分野が増えてきている（一般機械器具製造業）。」など、受注状況の回復が、先行きの景況感の改善に繋がっているようだ。

雇用関連では、「年末に向けて組織体制の整備のため、徐々に採用を検討し始めている中小企業が増加基調にある（民間職業紹介機関）。」や「派遣人材について、新型コロナウイルスの影響で受入れを完全に止めていた企業が、少しずつ動き始めている（人材派遣会社）。」など、求人需要が徐々に回復し始めていることを示すコメントが多くみられた。

○感染状況の悪化により、一段の景況感の改善は望み難い

GoToキャンペーンをはじめとした政策的な後押しや感染状況がいったん落ち着いたことによる人出の回復を受けて、景況感の改善が続いている。もっとも、今後一段と景況感が改善する展開は望み難い。従前から冬場における感染の再拡大への懸念は指摘されていたが、足もとでの新規感染者数は拡大傾向にある。特に感染状況が悪化している北海道では警戒レベルが引き上げられ、接待を伴う飲食店などに営業時間の短縮を要請するなど、感染防止が強化される動きが強まっている。景気ウォッチャー調査においても「インフルエンザの流行により、新型コロナウイルスの感染者数が増えるような気がする（百貨店）。」や「新型コロナウイルスの感染状況は、冬場を迎えて拡大する恐れがあり、消費意欲が低下する可能性が高い（家電量販店）。」など、感染状況の悪化を懸念するコメントがみられており、今後の感染状況次第では景況感の急激な悪化の可能性も否めない。これまで感染状況が比較的落ち着いていたことから、経済活動の再開が進んできたが、今後の感染状況によっては再度経済活動への制約が強まっていくことも想定され、今後は感染状況の悪化が景況感改善の重石となる可能性が高まっており、これから冬を迎えるにあたり、景気を占う上で、感染状況の動向がこれまで以上に重要になるだろう。



(出所)内閣府「景気ウォッチャー調査」

本資料は情報提供を目的として作成されたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。作成時点で、第一生命経済研究所調査研究本部経済調査部が信ずるに足ると判断した情報に基づき作成していますが、その正確性、完全性に対する責任は負いません。見直しは予告なく変更されることがあります。また、記載された内容は、第一生命保険ないしはその関連会社の投資方針と常に整合的であるとは限りません。

